

心理的虐待の実態 [I]

—— 大阪コミュニティ調査報告書 ——

人間社会学科 石川義之

邦文アブストラクト（抄録）：

本稿（Ⅱを含む）は、大阪市在住の20歳代の男女を対象にした、心理的（情緒的）虐待に関するアンケート調査の単純集計結果の報告である。標本抽出法は層化2段抽出法に基づく無作為抽出法、調査方法は自計式調査票法による郵送調査法、調査期間は2004年11月～2005年3月、調査対象者2,000人に対して有効回答数147人、有効回答率7.35%であった。

本稿（Ⅱを含む）を構成する章立ては次のようになっている。0. 序論、1. 調査実施の概要、2. 回答者の属性、3. 質問文と回答状況－単純集計－。

本稿（Ⅱを含む）における分析から得られた主な知見は以下のとおりである。

1. 被害経験の有無；心理的虐待の被害経験がある者の比率81.0%，ない者の比率19.0%。
2. 被害経験の多寡；被害経験がない者の比率19.0%，少しある者の比率41.5%，多くある者の比率39.5%。
3. 被害を受けた時期；子ども時代86.9%，成人期13.1%。

単純集計以上の統計分析法、すなわち、カイ2乗検定、t検定、分散分析、多変量解析等による分析結果は別の機会に報告する。

0. 序

0-1. 心理的虐待の概念

多くの研究者が、心理的虐待（情緒的虐待）こそ虐待の中で最も破壊的であり、広く普及している形態だと主張している。反面、心理的虐待は、child maltreatment（子どもの虐待／不適切な関わり）のうちで最も不鮮明な形態であるとされる。何ををもって心理的虐待とするかについては多くの議論や混乱があるからである。

議論の多様性と混乱の中心には、「心理的」という言葉の意味が不明確だという点がある。この言葉は、加害者の行動についてなのか、被害者に結果として生じる影響についてなのか、意見の一致をみていない。このことに関して、マクギーとウルフ（McGee & Wolfe 1991）は、心理的虐待について専門家たちが力説する複数の視点を説明するための枠組みを提案した。図1は、ミラー・ペリンとペリンとによる修正枠組みである。ここでは、親の行動と子どもへの影響とによって、4つのコンビネーションが考えられている。

この枠組みにおいて、親の身体的行動（例えば、子どもに煙草の火を押し付ける）によって子どもに身体的影響（例えば、火傷を負わせる）があった場合身体的虐待の概念となる。親の身体的行動によって子どもに非身体的影響（例えば、不安や恐怖）が生じた場合心理的虐待となる。親の非身体的行動（例えば、鈍感な養育；子どもの養育や注意を求めるニーズに反応しない）によって子どもに身体的影

図1 心理的虐待の概念

		親の行動	
		身体的	非身体的
子どもへの影響	身体的	身体的虐待	心理的虐待
	非身体的	心理的虐待	心理的虐待

出典: Modified from “Psychological Maltreatment: Toward an Operational Definition,”
by R. A. McGee & D. A. Wolfe, 1991, *Development and Psychopathology*, 3: 3-18.

響（例えば、栄養失調）が与えられた場合も心理的虐待となる。さらに、親の非身体的行動（例えば、子どもをののしる）によって子どもに非身体的影響（例えば、認知的な発達障害、自尊心の低下）が及んだ場合も心理的虐待と捉えられる。

マクギーとウルフは、この枠組みにおける心理的虐待概念の可能性について、心理的虐待は子どもへの影響よりも親の行動を基に定義すべきだと主張している。本稿でも、このマクギーとウルフの主張に準じて、親の非身体的行動によって子どもに身体的および／もしくは非身体的影響が現れる蓋然性がある場合心理的虐待と把握する定義を採用したいと思う。つまり、「心理的」という言葉は、子どもへの影響よりも親の行動に適用される。もちろん、心理的虐待の純粹型は、親の非身体的行動によって子どもに非身体的な悪影響が生じる場合である。

0-2. 心理的虐待のサブカテゴリー

このように定義される心理的虐待のサブカテゴリーは、① 拒否、② けなす、③ 威嚇する、④ 孤立させる、⑤ 誤った社会化を促す、⑥ 搾取する、⑦ 情緒的反応を否定する、⑧ 狭いところに閉じ込める、などであるとされる（Baily & Baily 1986; Garbarino, Guttman & Seely 1986; Hart & Brassard & 1991; Hart, Germain & Brassard 1987）。

0-3. 心理的虐待の概算

全米事例研究（NIS）による1988年調査（NIS-2）では、心理的虐待の発生件数39万1100件、child maltreatment全体の28%を占めた。1996年調査（NIS-3）の結果によると、1986年から1993年の間に心理的虐待の発生数はほぼ3倍に増加したとされる。

第2回全米家族内暴力調査（1991年）による自己申告調査では、およそ63%の親が過去1年間に少なくとも1回は自分の子どもに心理的虐待を行ったと回答している。また、親子葛藤戦略尺度（CTSPC）（Straus et al. 1998）を用いた全米の親のサンプル調査では、およそ86%の親が過去1年間に少なくとも1回は何らかの心理的攻撃（例えば、怒鳴る、叫ぶ、大声を出す、脅しを使う、ののしる）を加えたと報告されている。

わが国の場合について、1997年（平成9年）の『全児相：通巻62号別冊～全国児童相談所における家庭内虐待調査結果報告書』によって見ると、全国175児童相談所から、2,061件（半年）の報告があった。1年間に換算すると4,122件となる。総数2,061件の内訳は、「身体的虐待」48.9%、「不適切な保護

ないし拒否」40.4%、「心理的虐待」5.9%、「性的虐待」4.9%となっている。これは主たる虐待についてであるが、殊に「心理的虐待」は、従として挙げられる数が多く、従を入れると4.5倍になり、全体に占める割合も18.0%と大幅に増加する。2,061件の18.0%は371件である。同調査結果によると、「心理的虐待」は、虐待者自身の被虐待体験が「身体的虐待」に続いて多く、「望まれずに出生」のケースが多く、「育児に嫌悪感、拒否感情」の比率が高い。「心理的虐待」であっても14.8%に打撲傷や痣などが認められ、被虐待児には「不安、怯え」に次いで「反社会的問題行動」が多く現れていた。虐待全体では虐待者自身が自分の行為を虐待と認めないケースが64.9%を占めたが、「心理的虐待」の場合は37.1%の虐待者が「虐待を認め、援助を求めている」という結果が出ている。虐待者は、「実母」が「実父」を上回り、「性格の偏り」が顕著に認められた。被虐待者の性別は女兒50.8%となっている。被虐待児全体の場合「在宅指導」は37.2%、うち「心理的虐待」においては「通所」の比率が高いという結果になっている（全国児童相談所所長会 1997）。以上は、全国の児童相談所に相談・通告された事例の分析であって、わが国の「心理的虐待」の現状を代表しているものではない。実相は闇の中にある。

0-4. 心理的虐待の影響

心理的虐待の初期的影響としては、人間関係の不適応（友だちとの関係が困難等）、知的な障害（学校の成績の悪さ等）、感情に左右されやすい行動（攻撃性等）などの問題が指摘されている。長期的影響としては、自尊心の低さ、不安、うつ、解離、対人関係における感受性の強さなどが指摘されている。

0-5. 心理的虐待をする親の特徴

心理的虐待をする親たちは、ストレスに対処する能力が低く、人間関係をつくるのが苦手で、社会的孤立の度合いが高い。加えて、子どもを管理するスキルに問題が多く、社会的な支援ネットワークが少なく、夫婦間の不和・アルコールや薬物の摂取など心理社会的な問題を抱えていることが多いことが分かっている。

0-6. 心理的虐待の原因

心理的虐待の原因を探るためには、身体的虐待や性的虐待の説明のために作られた理論—マクロ理論：緊張理論，社会的結びつき理論，抑止理論など；ミクロ理論：精神病理学，親子の関係理論，社会的学習理論などを同じようにあてはめることが多い。しかし、これらの理論の妥当性については一層吟味を重ねることが必要であり、また、心理的虐待に独自の原因論を探ることも不可欠である。

0-7. 心理的虐待への対応

心理的虐待をする家族に対しては、そのような家族がもつ多面的な問題の性質を考慮して、複数サービスによる介入のアプローチが勧められている。複数サービスによる介入においては、通常、個人・家族・グループのカウンセリング，社会的支援サービス，問題行動をなくすための行動スキルトレーニング，養育指導を取り混ぜた幅広いサービスが行われる。しかし未だ、心理的虐待の独特な特徴に配慮した介入方法はほとんど開発されていない。予防・防止の方法についてもしかりである。（Miller-Perrin & Perrin 1999=2003: 60-75, 304-334）

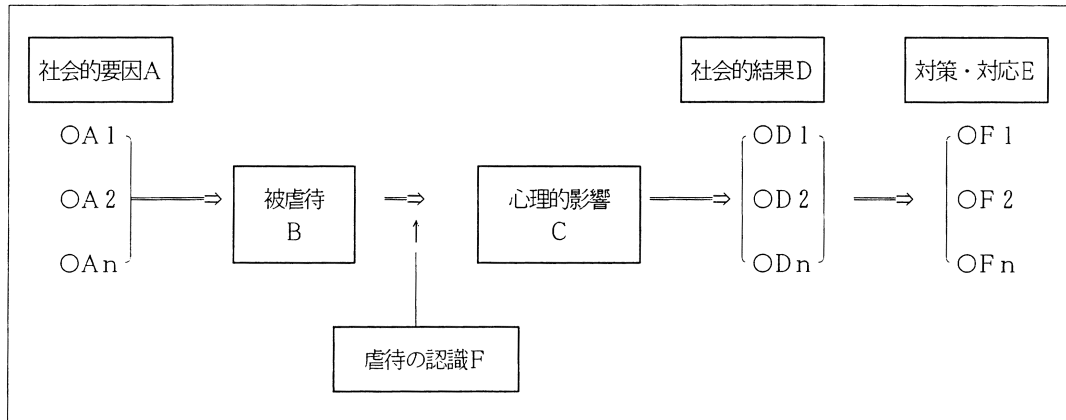
0-8. 調査設計のための仮説モデル

本稿で取り上げた調査を設計するにあたって設定した仮説モデルを図示すれば以下ようになる。

本稿における分析は、この仮説モデルの検証に向かって遂行されるであろう。

そして、そのことを通して、上で示唆した心理的虐待をめぐる未解決の問題について多少なりとも解決の指針を得ることを期待している。

図2 心理的虐待をめぐる仮説モデル



1. 調査実施の概要

(1) 調査対象者

大阪市の城東区（大阪市北部）及び住吉区（大阪市南部）に在住の20歳～29歳（20歳代）の男女2,000名。

(2) 調査対象者の年齢区間

子ども時代（18歳未満）の被虐待経験を尋ねる質問が調査票の中核をなしている関係上、子ども時代の経験について記憶が鮮明な20歳代（20歳～29歳）の男女を対象を限定した。

(3) 標本抽出法

無作為抽出法：層化2段階抽出法；大阪市を北部と南部に層化し、第1段階の調査地点のサンプリングとしては、北部からは城東区、南部からは住吉区を選ぶ。この両地区は、人口、年齢別構成比、産業3部門就業割合において関西圏全体のデータに近い値を示している。第2段階の標本のサンプリングとしては、両地区在住の20歳～29歳（20歳代）の男女からそれぞれ1,000名（男性500名、女性500名）を、選挙人名簿抄本を用いて系統抽出法（等間隔抽出法）によって抽出した。

(4) 調査方法

調査票法（自計式調査票法）による郵送調査法。

(5) 調査期間

2004年11月5日～2005年3月1日。

(6) 有効回答数（有効回答率）

147名（7.35%）。

2. 回答者の属性

(1) 回答者の年齢分布

表1-1 あなたの年齢はおいくつですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20.00	15	10.2	10.4	10.4
	21.00	17	11.6	11.8	22.2
	22.00	11	7.5	7.6	29.9
	23.00	9	6.1	6.3	36.1
	24.00	15	10.2	10.4	46.5
	25.00	13	8.8	9.0	55.6
	26.00	14	9.5	9.7	65.3
	27.00	23	15.6	16.0	81.3
	28.00	18	12.2	12.5	93.8
	29.00	8	5.4	5.6	99.3
	30.00	1	.7	.7	100.0
	合計	144	98.0	100.0	
欠損値	無回答	3	2.0		
合計		147	100.0		

表1-1-1 統計量

あなたの年齢はおいくつですか。

度数	有効	144
	欠損値	3
平均値		24.5972
最頻値		27.00
標準偏差		2.89035
最小値		20.00
最大値		30.00

(2) 回答者の性別分布

表1-2 あなたの性別をお答え下さい。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	43	29.3	29.7	29.7
	女	102	69.4	70.3	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

(3) 子ども時代(18歳未満)における回答者の家庭の家族構成

表1-3 子供時代(18歳未満)におけるあなたの家庭の家族構成

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	母・子のみ	7	4.8	4.8	4.8
	父・子のみ	2	1.4	1.4	6.2
	両親と子	99	67.3	68.3	74.5
	三世同居(祖父母・両親・子どもなどの同居)	32	21.8	22.1	96.6
	1～4の家族形態に加え、伯父・伯母・叔父・叔母やその子などと	1	.7	.7	97.2
	その他の家族	4	2.7	2.8	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

(4) 子ども時代(18歳未満)における回答者の主な居住地域

表1-4 子ども時代(18歳未満)におけるあなたの主なお住まいの地域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	商業地域	1	.7	.7	.7
	工業地域	1	.7	.7	1.4
	住宅地域	85	57.8	59.0	60.4
	アパート・マンション団地	42	28.6	29.2	89.6
	農村地域	8	5.4	5.6	95.1
	漁村地域	1	.7	.7	95.8
	山間地域	6	4.1	4.2	100.0
	合計	144	98.0	100.0	
欠損値	無回答	3	2.0		
合計		147	100.0		

(5) 回答者の最終学歴(卒業・修了見込みを含む)

表1-5 最終学歴(卒業・終了見込みを含む)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	大学院	1	.7	.7	.7
	大学	71	48.3	48.3	49.0
	短期大学	23	15.6	15.6	64.6
	専門学校	14	9.5	9.5	74.1
	高校	30	20.4	20.4	94.6
	中学	6	4.1	4.1	98.6
	その他	2	1.4	1.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

(6) 回答者の子ども時代の家庭の経済状況(主観的帰属階層)

表1-6 子ども時代の経済状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	上層	3	2.0	2.1	2.1
	中層の上	38	25.9	26.0	28.1
	中層の中	70	47.6	47.9	76.0
	中層の下	26	17.7	17.8	93.8
	下層	9	6.1	6.2	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

(7) 回答者の現在の家庭の経済状況（主観的帰属階層）

表1-7 現在の経済状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	上層	3	2.0	2.1	2.1
	中層の上	28	19.0	19.2	21.2
	中層の中	70	47.6	47.9	69.2
	中層の下	30	20.4	20.5	89.7
	下層	15	10.2	10.3	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

(8) 回答者の持つ気の許せる友人の数

表1-8 気の許せる友人の数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10人以上	23	15.6	15.9	15.9
	5人以上	57	38.8	39.3	55.2
	3人以上	40	27.2	27.6	82.8
	2人	18	12.2	12.4	95.2
	1人	4	2.7	2.8	97.9
	いない	3	2.0	2.1	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

(9) 回答者の結婚状況

表1-9 婚姻の有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	結婚している(現在、配偶者がいる)	37	25.2	25.2	25.2
	結婚していないが、同居のパートナーがいる	7	4.8	4.8	29.9
	結婚したことはあるが、離婚した	2	1.4	1.4	31.3
	結婚していない(未婚)	101	68.7	68.7	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

(10) 回答者の現在の主な職業

表1-10 職業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 学生	30	20.4	20.4	20.4
主婦・主夫	16	10.9	10.9	31.3
自営業主(農林漁業、商工サービス業、自由業などの自営業)	5	3.4	3.4	34.7
家族従業者(農林漁業、商工サービス業、自由業などの自営業)	2	1.4	1.4	36.1
勤め人	80	54.4	54.4	90.5
家事専業	1	.7	.7	91.2
無職(年金・金利生活など)	2	1.4	1.4	92.5
その他	11	7.5	7.5	100.0
合計	147	100.0	100.0	

(11) 回答者が勤め人の場合の雇用形態

表1-11 雇用形態

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 常勤	68	46.3	76.4	76.4
非常勤(パートタイム、アルバイトなど)	21	14.3	23.6	100.0
合計	89	60.5	100.0	
欠損 非該当	54	36.7		
値 無回答	4	2.7		
合計	58	39.5		
合計	147	100.0		

3. 質問文と回答状況－単純集計－

3-1. 回答者の現在の状況

II. [現在の状況]

現在のあなたの状態についてお聞きます。

以下のもので、あてはまる数字に○を付けて下さい。(○は1つ)

そう
思う
あまり
思わ
ない
少し
思う
そう
思う

1. イライラして、怒りっぽくなっている 1-2-3-4
2. この先、何かよいことがあるとは思えない 1-2-3-4
3. 自分が自分でないような気がする 1-2-3-4
4. 他者との親密な関係は築けない 1-2-3-4
5. 今、生きているという感覚がない 1-2-3-4
6. 自分のことをわかってくれる人などいないと感じる 1-2-3-4
7. 他者を信じることができない 1-2-3-4

そう思う
少し思う
あまり思わない
そう思わない

8. 叱ったりする他者に対しては、自分のためにそうしているのだとむしろ感謝の念を感じる … 1-2-3-4
 9. 自分なんて世の中に必要がない人間だと感じる …………… 1-2-3-4
 10. 自殺を考えることがある …………… 1-2-3-4

表2-1-1 イライラして、怒りっぽくなっている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 そう思わない	24	16.3	16.3	16.3
あまり思わない	49	33.3	33.3	49.7
少し思う	51	34.7	34.7	84.4
そう思う	23	15.6	15.6	100.0
合計	147	100.0	100.0	

表2-1-2 この先、何かよいことがあるとは思えない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 そう思わない	70	47.6	47.6	47.6
あまり思わない	43	29.3	29.3	76.9
少し思う	29	19.7	19.7	96.6
そう思う	5	3.4	3.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

表2-1-3 自分が自分でないような気がする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 そう思わない	85	57.8	57.8	57.8
あまり思わない	35	23.8	23.8	81.6
少し思う	19	12.9	12.9	94.6
そう思う	8	5.4	5.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

表2-1-4 他者との親密な関係は築けない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 そう思わない	74	50.3	50.3	50.3
あまり思わない	41	27.9	27.9	78.2
少し思う	23	15.6	15.6	93.9
そう思う	9	6.1	6.1	100.0
合計	147	100.0	100.0	

表2-1-5 今、生きているという感覚がない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 そう思わない	115	78.2	78.2	78.2
あまり思わない	24	16.3	16.3	94.6
少し思う	7	4.8	4.8	99.3
そう思う	1	.7	.7	100.0
合計	147	100.0	100.0	

表2-1-6 自分のことをわかってくれる人などいないと感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	92	62.6	62.6	62.6
	あまり思わない	32	21.8	21.8	84.4
	少し思う	18	12.2	12.2	96.6
	そう思う	5	3.4	3.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-1-7 他者を信じることができない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	77	52.4	52.4	52.4
	あまり思わない	37	25.2	25.2	77.6
	少し思う	26	17.7	17.7	95.2
	そう思う	7	4.8	4.8	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-1-8 叱ったりする他者に対しては、自分のためにそうしているのだとむしろ感謝の念を感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	14	9.5	9.5	9.5
	あまり思わない	37	25.2	25.2	34.7
	少し思う	72	49.0	49.0	83.7
	そう思う	24	16.3	16.3	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-1-9 自分なんて世の中に必要がない人間だと感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	80	54.4	54.4	54.4
	あまり思わない	42	28.6	28.6	83.0
	少し思う	19	12.9	12.9	95.9
	そう思う	6	4.1	4.1	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-1-10 自殺を考えることがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	115	78.2	78.2	78.2
	あまり思わない	21	14.3	14.3	92.5
	少し思う	8	5.4	5.4	98.0
	そう思う	3	2.0	2.0	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

本質問は、PTSDを尺度化したものである。「そう思う」がPTSD症状が最も重く、「そう思わない」がPTSD症状が最も軽度であることを意味する。(堀洋道監修／松井豊編 2001: 125-130)

「思う」(「少し思う」+「そう思う」)の比率が最も高いのは、「8. 叱ったりする他者に対しては、自分のためにそうしているのだとむしろ感謝の念を感じる」で65.3%、次いで「1. イライラして、怒りっぽくなっている」の50.3%となっている。

「思わない」(「そう思わない」+「あまり思わない」)の比率が最も高いのは、「5. 今、生きているという感覚がない」で94.6%、次いで「10. 自殺を考えることがある」の92.5%となっている。

3-2. 親子関係における経験

Ⅲ. [親子関係における経験]

あなたと、あなたの養育者（父・母・祖父母など）との間の出来事について、以下の質問項目にお答え下さい。なお、経験が「1. 頻繁にある」「2. ときどきある」に○をされた方は、受けた時期をお教え下さい。

複数時期に及んだ場合は、主な時期をお答え下さい。

（全ての項目において、「頻繁にある、ときどきある、ない」・「時期」ごとに○は1つずつ）

1. 養育者は機嫌が悪い時、机を叩いたり、物にあたったりすることがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない
この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）
3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-1-1 機嫌が悪い時、机をたたいたり、物にあたったりすることがある（経験の有無）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	6	4.1	4.1	4.1
	ときどきある	42	28.6	29.0	33.1
	ない	97	66.0	66.9	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-1-2 機嫌が悪い時、机をたたいたり、物にあたったりすることがある（経験の時期）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前（0～6歳）	7	4.8	14.6	14.6
	小学校低学年（7～9歳）	9	6.1	18.8	33.3
	小学校高学年（10～12歳）	10	6.8	20.8	54.2
	中学校時（13～15歳）	15	10.2	31.3	85.4
	16～17歳（高校時）	5	3.4	10.4	95.8
	18歳以上	2	1.4	4.2	100.0
	合計	48	32.7	100.0	
欠損値	非該当	97	66.0		
	無回答	2	1.4		
	合計	99	67.3		
合計		147	100.0		

質問Ⅲは、回答者の心理的虐待の被虐待経験の有無と、被虐待経験がある場合のその時期を尋ねたものである。被虐待経験の被害経験の項目は18項目に及んでいる。（Miller-Perrin and Perrin 1999＝2003: 312-3）

第1項目の「養育者は機嫌が悪い時、机を叩いたり、物にあたったりすることがある」の被害経験の有無については、「ない」66.9%、「ときどきある」29.0%、「頻繁にある」4.1%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを加えた「ある」は33.1%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時（13～15歳）」が最も多く31.3%、以下「小

学校高学年（10～12歳）」20.8%、「小学校低学年（7～9歳）」18.8%とつづいている。「小学校高学年」までで54.2%と過半数に達し、「中学校時」までで85.4%と高比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は95.8%に及んでいる。

2. 話を聞いて欲しいと思う時に、養育者から聞いてもらえない時がある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）

3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-2-1 話を聞いて欲しいと思う時に、養育者から聞いてもらえない時がある（経験の有無）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	14	9.5	9.7	9.7
	ときどきある	30	20.4	20.7	30.3
	ない	101	68.7	69.7	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-2-2 話を聞いて欲しいと思う時に、養育者から聞いてもらえない時がある（経験の時期）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前（0～6歳）	1	.7	2.3	2.3
	小学校低学年（7～9歳）	6	4.1	14.0	16.3
	小学校高学年（10～12歳）	12	8.2	27.9	44.2
	中学校時（13～15歳）	15	10.2	34.9	79.1
	16～17歳（高校時）	5	3.4	11.6	90.7
	18歳以上	4	2.7	9.3	100.0
	合計	43	29.3	100.0	
欠損値	非該当	101	68.7		
	無回答	3	2.0		
	合計	104	70.7		
合計		147	100.0		

第2項目の「話を聞いて欲しいと思う時に、養育者から聞いてもらえない時がある」の被害経験の有無については、「ない」69.7%、「ときどきある」20.7%、「頻繁にある」9.7%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを加えた「ある」は30.3%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時（13～15歳）」が最も多く34.9%、以下「小学校高学年（10～12歳）」27.9%、「小学校低学年（7～9歳）」14.0%とつづいている。「小学校高学年」までで44.2%と4割を超え、「中学校時」までで79.1%と高比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験が90.7%を占めている。

3. 養育者は、あなたの部屋に勝手に入ったり、あなたの持ち物を勝手にチェックすることがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）

3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-3-1 あなたの部屋に勝手に入ったり、あなたの持ち物を勝手にチェックすることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	11	7.5	7.6	7.6
	ときどきある	50	34.0	34.7	42.4
	ない	83	56.5	57.6	100.0
	合計	144	98.0	100.0	
欠損値	無回答	3	2.0		
合計		147	100.0		

表2-2-3-2 あなたの部屋に勝手に入ったり、あなたの持ち物を勝手にチェックすることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校低学年(7～9歳)	9	6.1	15.5	15.5
	小学校高学年(10～12歳)	8	5.4	13.8	29.3
	中学校時(13～15歳)	24	16.3	41.4	70.7
	16～17歳(高校時)	9	6.1	15.5	86.2
	18歳以上	8	5.4	13.8	100.0
	合計	58	39.5	100.0	
欠損値	非該当	83	56.5		
	無回答	6	4.1		
	合計	89	60.5		
合計		147	100.0		

第3項目の「養育者は、あなたの部屋に勝手に入ったり、あなたの持ち物を勝手にチェックすることがある」の被害経験の有無については、「ない」57.6%、「ときどきある」33.7%、「頻繁にある」7.6%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを加えた「ある」は42.4%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時(13～15歳)」が最も多く41.4%、次いで「小学校低学年(7～9歳)」と「16～17歳(高校時)」とが同比率で15.5%となっている。「小学校高学年」までで29.3%、「中学校時」までで70.7%に上っている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験が86.2%を占めている。

4. 養育者は、あなたを叱る場面で、理由なしに叱ることがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-4-1 あなたを叱る場面で、理由なしに叱ることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	7	4.8	4.8	4.8
	ときどきある	14	9.5	9.7	14.5
	ない	124	84.4	85.5	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-4-2 あなたを叱る場面で、理由なしに叱ることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	1	.7	4.8	4.8
	小学校低学年(7～9歳)	5	3.4	23.8	28.6
	小学校高学年(10～12歳)	5	3.4	23.8	52.4
	中学校時(13～15歳)	5	3.4	23.8	76.2
	16～17歳(高校時)	2	1.4	9.5	85.7
	18歳以上	3	2.0	14.3	100.0
	合計	21	14.3	100.0	
欠損値	非該当	124	84.4		
	無回答	2	1.4		
	合計	126	85.7		
合計		147	100.0		

第4項目の「養育者は、あなたを叱る場面で、理由なしに叱ることがある」の被害経験の有無については、「ない」85.5%、「ときどきある」9.7%、「頻繁にある」4.8%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを加えた「ある」は14.5%となっている。

「ある」場合の被害虐待経験の時期については、「小学校低学年(7～9歳)」「小学校高学年(10～12歳)」「中学校時(13～15歳)」の3つの時期が同比率で最も多く共に23.8%となっている。「小学校高学年」までで52.4%と過半数に達し、「中学校時」までで76.2%とかなり高い比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は85.7%に上っている。

5. 仲のいい友達に対して、養育者から、「あの子と遊んではいけない」「あの子と付き合ってはいけない」などと、あなたの行動を規制されることがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-5-1 仲のいい友達に対して、「あの子と遊んではいけない」「あの子と付き合ってはいけない」などと、あなたの行動を規制されることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	8	5.4	5.5	5.5
	ときどきある	31	21.1	21.4	26.9
	ない	106	72.1	73.1	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-5-2 仲のいい友達に対して、「あの子と遊んではいけない」「あの子と付き合っ
てはいけない」などと、あなたの行動を規制されることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	1	.7	2.6	2.6
	小学校低学年(7～9歳)	5	3.4	13.2	15.8
	小学校高学年(10～12歳)	10	6.8	26.3	42.1
	中学校時(13～15歳)	14	9.5	36.8	78.9
	16～17歳(高校時)	4	2.7	10.5	89.5
	18歳以上	4	2.7	10.5	100.0
	合計	38	25.9	100.0	
欠損 値	非該当	106	72.1		
	無回答	3	2.0		
	合計	109	74.1		
合計		147	100.0		

第5項目の「仲のいい友達に対して、養育者から、『あの子と遊んではいけない』『あの子と付き合っ
てはいけない』などと、あなたの行動を規制されることがある」の被害経験の有無については、「ない」
73.1%、「ときどきある」21.4%、「頻繁にある」5.5%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わ
せた「ある」は26.9%となっている。

「ある」場合の被害待経験の時期については、「中学校時(13～15歳)」が最も多く36.8%、以下「小
学校高学年(10～12歳)」26.3%、「小学校低学年(7～9歳)」13.2%とつづいている。「小学校高学年」
までで42.1%と4割を超え、「中学校時」までで78.9%と高い比率を占めている。18歳未満の「子ども
時代」の被害経験は89.5%に上っている。

6. 家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-6-1 家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことが
ある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	9	6.1	6.2	6.2
	ときどきある	41	27.9	28.3	34.5
	ない	95	64.6	65.5	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-6-2 家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	5	3.4	10.2	10.2
	小学校低学年(7～9歳)	16	10.9	32.7	42.9
	小学校高学年(10～12歳)	10	6.8	20.4	63.3
	中学校時(13～15歳)	12	8.2	24.5	87.8
	16～17歳(高校時)	5	3.4	10.2	98.0
	18歳以上	1	.7	2.0	100.0
	合計	49	33.3	100.0	
欠損値	非該当	95	64.6		
	無回答	3	2.0		
	合計	98	66.7		
合計		147	100.0		

第6項目の「家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことがある」の被害経験の有無については、「ない」65.5%、「ときどきある」28.3%、「頻繁にある」6.2%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は34.5%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校低学年(7～9歳)」が最も多く32.7%、以下「中学校時(13～15歳)」24.5%、「小学校高学年(10～12歳)」20.4%とつづいている。「小学校高学年」までで63.3%と過半に達し、「中学校時」までで87.8%と高比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は98.0%を占め、この被虐待経験の殆ど全てが「子ども時代」に起こっている。

7. あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-7-1 あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	3	2.0	2.1	2.1
	ときどきある	2	1.4	1.4	3.4
	ない	140	95.2	96.6	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-7-2 あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	1	.7	20.0	20.0
	小学校高学年(10～12歳)	2	1.4	40.0	60.0
	16～17歳(高校時)	2	1.4	40.0	100.0
	合計	5	3.4	100.0	
欠損値	非該当	140	95.2		
	無回答	2	1.4		
	合計	142	96.6		
合計		147	100.0		

第7項目の「あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある」の被害経験の有無については、「ない」96.6%、「ときどきある」1.4%、「頻繁にある」2.1%で、「ない」が圧倒的に多く、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は3.4%にすぎない。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校高学年（10～12歳）」と「16～17歳（高校時）」とが同比率でそれぞれ40.0%、次いで「小学校入学以前（0～6歳）」の20.0%となっている。これまで見てきた他項目で多かった「中学校時（13～15歳）」は0%である。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は100%であり、この被虐待経験の全てが「子ども時代」に起こっている。

8. あなたの努力に対して、養育者は、「よくがんばったね」などと誉めてくれないことがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）

3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-8-1 あなたの努力に対して、養育者は、「よくがんばったね」などと誉めてくれないことがある（経験の有無）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	12	8.2	8.3	8.3
	ときどきある	29	19.7	20.0	28.3
	ない	104	70.7	71.7	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-8-2 あなたの努力に対して、養育者は、「よくがんばったね」などと誉めてくれないことがある（経験の時期）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前（0～6歳）	3	2.0	8.1	8.1
	小学校低学年（7～9歳）	6	4.1	16.2	24.3
	小学校高学年（10～12歳）	7	4.8	18.9	43.2
	中学校時（13～15歳）	9	6.1	24.3	67.6
	16～17歳（高校時）	8	5.4	21.6	89.2
	18歳以上	4	2.7	10.8	100.0
	合計	37	25.2	100.0	
欠損値	非該当	103	70.1		
	無回答	7	4.8		
	合計	110	74.8		
合計		147	100.0		

第8項目の「あなたの努力に対して、養育者は、『よくがんばったね』などと誉めてくれないことがある」の被害経験の有無については、「ない」71.7%、「ときどきある」20.0%、「頻繁にある」8.3%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は28.3%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時（13～15歳）」が最も多く24.3%、以下「小学校高学年（10～12歳）」18.9%、「小学校低学年（7～9歳）」16.2%とつづいている。「小学校高学年」までで43.2%と4割を超え、「中学校時」までで67.6%と過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は89.2%に及んでいる。

9. とても楽しみにしていた家族との約束事（遊園地や旅行に行く約束など）が、養育者の気分により一変して突如中止になることがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）

3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-9-1 とても楽しみにしていた家族との約束事（遊園地や旅行に行く約束など）が、養育者の気分により一変して突如中止になることがある（経験の有無）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	10	6.8	6.9	6.9
	ときどきある	18	12.2	12.4	19.3
	ない	117	79.6	80.7	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-9-2 とても楽しみにしていた家族との約束事（遊園地や旅行に行く約束など）が、養育者の気分により一変して突如中止になることがある（経験の時期）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前（0～6歳）	1	.7	3.7	3.7
	小学校低学年（7～9歳）	12	8.2	44.4	48.1
	小学校高学年（10～12歳）	4	2.7	14.8	63.0
	中学校時（13～15歳）	3	2.0	11.1	74.1
	16～17歳（高校時）	2	1.4	7.4	81.5
	18歳以上	5	3.4	18.5	100.0
	合計	27	18.4	100.0	
欠損値	非該当	117	79.6		
	無回答	3	2.0		
	合計	120	81.6		
合計		147	100.0		

第9項目の「とても楽しみにしていた家族との約束事（遊園地や旅行に行く約束など）が、養育者の気分により一変して突如中止になることがある」の被害経験の有無については、「ない」80.7%、「ときどきある」12.4%、「頻繁にある」6.9%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は19.3%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校低学年（7～9歳）」が最も多く44.4%、以下「18歳以上」18.5%、「小学校高学年（10～12歳）」14.8%、「中学校時（13～15歳）」11.1%とつづいている。「小学校高学年」までで63.0%と過半に達し、「中学校時」までで74.1%とかなり高い比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は81.5%となっている。

10. 養育者は、あなたを常に怒鳴ったりののしったりしていることがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）

3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-10-1 養育者は、あなたを常に怒鳴ったりののしったりしていることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	12	8.2	8.3	8.3
	ときどきある	20	13.6	13.8	22.1
	ない	113	76.9	77.9	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-10-2 養育者は、あなたを常に怒鳴ったりののしったりしていることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	2	1.4	6.3	6.3
	小学校低学年(7～9歳)	6	4.1	18.8	25.0
	小学校高学年(10～12歳)	8	5.4	25.0	50.0
	中学校時(13～15歳)	10	6.8	31.3	81.3
	16～17歳(高校時)	3	2.0	9.4	90.6
	18歳以上	3	2.0	9.4	100.0
	合計	32	21.8	100.0	
欠損値	非該当	113	76.9		
	無回答	2	1.4		
	合計	115	78.2		
合計		147	100.0		

第10項目の「養育者は、あなたを常に怒鳴ったりののしったりしていることがある」の被害経験の有無については、「ない」77.9%、「ときどきある」13.8%、「頻繁にある」8.3%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は22.1%となっている。

「ある」場合の被害経験の時期については、「中学校時(13～15歳)」が最も多く31.3%、以下「小学校高学年(10～12歳)」25.0%、「小学校低学年(7～9歳)」18.8%とつづいている。「小学校高学年」までで50.0%と半数に達し、「中学校時」までで81.3%と高比率を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は90.6%に及んでいる。

11. 養育者は、あなたに家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしないことがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)

3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-11-1 養育者は、あなたに家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしないことがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	2	1.4	1.4	1.4
	ときどきある	2	1.4	1.4	2.8
	ない	141	95.9	97.2	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-11-2 養育者は、あなたに家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしなかったことがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校高学年(10～12歳)	2	1.4	50.0	50.0
	中学校時(13～15歳)	2	1.4	50.0	100.0
	合計	4	2.7	100.0	
欠損値	非該当	141	95.9		
	無回答	2	1.4		
	合計	143	97.3		
合計		147	100.0		

第11項目の「養育者は、あなたに家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしなかったことがある」の被害経験の有無については、「ない」97.2%、「ときどきある」と「頻繁にある」とが同率で共に1.4%、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は2.8%にすぎず低率である。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校高学年(10～12歳)」と「中学校時(13～15歳)」とが同率で各50.0%となっており、この被害の発生時期はこの2つのみである。したがって、この被害の場合、18歳未満の「子ども時代」での被害経験率は100%ということになる。

12. 養育者から、他人(友達・きょうだい・親戚など)と自分を比較され責められたことがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-12-1 養育者から、他人(友達・きょうだい・親戚など)と自分を比較され責められたことがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	13	8.8	8.9	8.9
	ときどきある	48	32.7	32.9	41.8
	ない	85	57.8	58.2	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

表2-2-12-2 養育者から、他人(友達・きょうだい・親戚など)と自分を比較され責められたことがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	2	1.4	3.3	3.3
	小学校低学年(7～9歳)	7	4.8	11.7	15.0
	小学校高学年(10～12歳)	11	7.5	18.3	33.3
	中学校時(13～15歳)	18	12.2	30.0	63.3
	16～17歳(高校時)	11	7.5	18.3	81.7
	18歳以上	11	7.5	18.3	100.0
	合計	60	40.8	100.0	
欠損値	非該当	85	57.8		
	無回答	2	1.4		
	合計	87	59.2		
合計		147	100.0		

第12項目の「養育者から、他人（友達・きょうだい・親戚など）と自分を比較され責められたことがある」の被害経験の有無については、「ない」58.2%、「ときどきある」32.9%、「頻繁にある」8.9%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は41.8%に上っている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時（13～15歳）」が最も多く30.0%、「小学校高学年（10～12歳）」「16～17歳（高校時）」「18歳以上」の3時期がそれにつづき各18.3%となっている。「小学校高学年」までは33.3%にとどまり、「中学校時」までで63.3%とようやく過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は81.7%を占めている。「18歳以上」においても2割弱の被害率を示しているのが本被害の特徴である。

13. 養育者が、あなたを人前で侮辱することがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない
この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）
3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-13-1 養育者が、あなたを人前で侮辱することがある(経験の有無)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 頻繁にある	3	2.0	2.1	2.1
ときどきある	17	11.6	11.6	13.7
ない	126	85.7	86.3	100.0
合計	146	99.3	100.0	
欠損値 無回答	1	.7		
合計	147	100.0		

表2-2-13-2 養育者が、あなたを人前で侮辱することがある(経験の時期)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 小学校低学年(7～9歳)	6	4.1	30.0	30.0
小学校高学年(10～12歳)	2	1.4	10.0	40.0
中学校時(13～15歳)	5	3.4	25.0	65.0
16～17歳(高校時)	4	2.7	20.0	85.0
18歳以上	3	2.0	15.0	100.0
合計	20	13.6	100.0	
欠損値 非該当	126	85.7		
無回答	1	.7		
合計	127	86.4		
合計	147	100.0		

第13項目の「養育者が、あなたを人前で侮辱することがある」の被害経験の有無については、「ない」86.3%、「ときどきある」11.6%、「頻繁にある」2.1%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は13.7%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校低学年（7～9歳）」が最も多く30.0%、以下「中学校時（13～15歳）」25.0%、「16～17歳（高校時）」20.0%とつづいている。「小学校高学年」までで40.0%と4割に達し、「中学校時」までで65.0%と過半を占めている。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は85.0%に上っている。

14. 養育者に、「お前なんて…」というような、あなたの存在を否定する言葉をかけられることがある

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）
3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-14-1 養育者に、「お前なんて…」というような、あなたの存在を否定する言葉をかけられることがある（経験の有無）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	6	4.1	4.1	4.1
	ときどきある	13	8.8	8.9	13.0
	ない	127	86.4	87.0	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

表2-2-14-2 養育者に、「お前なんて…」というような、あなたの存在を否定する言葉をかけられることがある（経験の時期）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校低学年（7～9歳）	1	.7	5.3	5.3
	小学校高学年（10～12歳）	3	2.0	15.8	21.1
	中学校時（13～15歳）	6	4.1	31.6	52.6
	16～17歳（高校時）	4	2.7	21.1	73.7
	18歳以上	5	3.4	26.3	100.0
	合計	19	12.9	100.0	
欠損値	非該当	127	86.4		
	無回答	1	.7		
	合計	128	87.1		
合計		147	100.0		

第14項目の「養育者に、『お前なんて…』というような、あなたの存在を否定する言葉をかけられることがある」の被害経験の有無については、「ない」87.0%、「ときどきある」8.9%、「頻繁にある」4.1%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は13.0%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時（13～15歳）」が最も多く31.6%、以下「18歳以上」26.3%、「16～17歳（高校時）」21.1%とつづいている。「小学校高学年」までは21.1%にすぎず、「中学校時」までで52.6%と過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は73.7%であった。

15. 養育者は、あなたに本来、大人がするべき役割を押し付けることがある

(例えば、幼時期に家事・育児を押し付ける)

この経験を受けたことが（○は1つ）：1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは（○は1つ）：1. 小学校入学以前（0～6歳） 2. 小学校低学年（7～9歳）
3. 小学校高学年（10～12歳） 4. 中学校時（13～15歳） 5. 16～17歳（高校時） 6. 18歳以上

表2-2-15-1 養育者は、あなたに本来、大人がすべき役割を押し付けることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	7	4.8	4.8	4.8
	ときどきある	11	7.5	7.6	12.4
	ない	127	86.4	87.6	100.0
	合計	145	98.6	100.0	
欠損値	無回答	2	1.4		
合計		147	100.0		

表2-2-15-2 養育者は、あなたに本来、大人がすべき役割を押し付けることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校低学年(7～9歳)	3	2.0	18.8	18.8
	小学校高学年(10～12歳)	2	1.4	12.5	31.3
	中学校時(13～15歳)	5	3.4	31.3	62.5
	16～17歳(高校時)	2	1.4	12.5	75.0
	18歳以上	4	2.7	25.0	100.0
	合計	16	10.9	100.0	
欠損値	非該当	127	86.4		
	無回答	4	2.7		
	合計	131	89.1		
合計		147	100.0		

第15項目の「養育者は、あなたに本来、大人がすべき役割を押し付けることがある(例えば、幼時期に家事・育児を押し付ける)」の被害経験の有無については、「ない」87.6%、「ときどきある」7.6%、「頻繁にある」4.8%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は12.4%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「中学校時(13～15歳)」が最も多く31.3%、以下「18歳以上」25.0%、「16～17歳(高校時)」25.0%、「小学校低学年」18.8%とつづいている。「小学校高学年」までは31.3%、そして「中学校時」までで62.5%と過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は75.0%であった。

16. 養育者が、自分の果たせなかった夢を、あなたを使って叶えようとし、あなたに過剰な期待をかけることがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)

3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-16-1 養育者が、自分の果たせなかった夢を、あなたを使って叶えようとし、あなたに過剰な期待をかけることがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	11	7.5	7.5	7.5
	ときどきある	21	14.3	14.4	21.9
	ない	114	77.6	78.1	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

2-2-16-2 表 養育者が、自分の果たせなかった夢を、あなたを使って叶えようとし、あなたに過剰な期待をかけることがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校低学年(7～9歳)	4	2.7	12.9	12.9
	小学校高学年(10～12歳)	3	2.0	9.7	22.6
	中学校時(13～15歳)	6	4.1	19.4	41.9
	16～17歳(高校時)	13	8.8	41.9	83.9
	18歳以上	5	3.4	16.1	100.0
	合計	31	21.1	100.0	
欠損値	非該当	114	77.6		
	無回答	2	1.4		
	合計	116	78.9		
合計		147	100.0		

第16項目の「養育者が、自分の果たせなかった夢を、あなたを使って叶えようとし、あなたに過剰な期待をかけることがある」の被害経験の有無については、「ない」78.1%、「ときどきある」14.3%、「頻繁にある」7.5%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は21.9%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「16～17歳(高校時)」が最も多く41.9%、以下「中学校時(13～15歳)」19.4%、「18歳以上」16.1%、「小学校低学年」12.9%とつづいている。「小学校高学年」までは22.6%、そして「中学校時」までで41.9%である。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は83.9%となっている。

17. 養育者が、「自殺してやる」と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりすることによって、あなたを脅すことがある

この経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

この経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳)
3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-2-17-1 養育者が、「自殺してやる」と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりすることによって、あなたを脅すことがある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	1	.7	.7	.7
	ときどきある	6	4.1	4.1	4.8
	ない	139	94.6	95.2	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

表2-2-17-2 養育者が、「自殺してやる」と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりすることによって、あなたを脅すことがある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	2	1.4	28.6	28.6
	小学校高学年(10～12歳)	1	.7	14.3	42.9
	中学校時(13～15歳)	1	.7	14.3	57.1
	16～17歳(高校時)	2	1.4	28.6	85.7
	18歳以上	1	.7	14.3	100.0
	合計	7	4.8	100.0	
欠損値	非該当	139	94.6		
	無回答	1	.7		
	合計	140	95.2		
	合計	147	100.0		

第17項目の「養育者が、『自殺してやる』と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりすることによって、あなたを脅すことがある」の被害経験の有無については、「ない」95.2%、「ときどきある」4.1%、「頻繁にある」0.7%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを合わせた「ある」は4.8%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「小学校入学以前」と「16～17歳(高校時)」とが同率で最も多く28.6%、次いで「小学校高学年(10～12歳)」「中学校時(13～15歳)」「18歳以上」の3者がやはり同率で各14.3%となっている。「中学校時」までで57.1%と過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験率は85.7%を占めている。

18. 以上に挙げた1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験がある(「ある」場合は、よろしければ、経験の内容を具体的にお書き下さい。○は1つ)

1～17以外の経験を受けたことが(○は1つ): 1. 頻繁にある 2. ときどきある 3. ない

1～17以外の経験を受けたのは(○は1つ): 1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳) 3. 小学校高学年(10～12歳) 4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

その経験の内容は:

表2-2-18-1 1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験がある(経験の有無)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にある	11	7.5	7.8	7.8
	ときどきある	26	17.7	18.4	26.2
	ない	104	70.7	73.8	100.0
	合計	141	95.9	100.0	
欠損値	無回答	6	4.1		
	合計	147	100.0		

表2-2-18-2 1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験がある(経験の時期)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0～6歳)	2	1.4	5.6	5.6
	小学校低学年(7～9歳)	7	4.8	19.4	25.0
	小学校高学年(10～12歳)	5	3.4	13.9	38.9
	中学校時(13～15歳)	5	3.4	13.9	52.8
	16～17歳(高校時)	8	5.4	22.2	75.0
	18歳以上	9	6.1	25.0	100.0
	合計	36	24.5	100.0	
欠損値	非該当	104	70.7		
	無回答	7	4.8		
	合計	111	75.5		
合計		147	100.0		

第18項目の「以上に挙げた1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験がある」の被害経験の有無については、「ない」73.8%、「ときどきある」18.4%、「頻繁にある」7.8%で、「ときどきある」と「頻繁にある」とを加えた「ある」は26.2%となっている。

「ある」場合の被虐待経験の時期については、「18歳以上」が最も多く25.0%、以下「16～17歳(高校時)」22.2%、「小学校低学年(7～9歳)」19.4%、「小学校高学年(10～12歳)」及び「中学校時(13～15歳)」各13.9%とつづいている。「小学校高学年」までで38.9%、そして「中学校時」までで52.8%と過半に達している。18歳未満の「子ども時代」の被害経験は75.0%を占める。

「ある」場合の被害経験の内容についての記述は以下のとおりである。経験の内容の記述に付した()の中には、回答者の年齢と性別が記入されている。

Ⅲ-18 1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験の内容(自由記述)

- ・両親が夫婦げんかをしたり祖母とけんかしたりして家を出たりしたこと。(28歳 女)
- ・幼い頃からたまに父が帰ってこなくなり、母を困らせることがあった。しかし、何週間後かに必ず帰ってきていた。私が大きくなってからは、家を突然出ることにはなかったが、最近になって、家を出た。幼い頃の記憶は薄れていたのだが、今こういうことがおきた時、ショックで落ち込んだ。母は「またか…」といった様子であったが、実際はとてもつらかったと思う。許せないと思ったが、やはり実際の血のつながった父なので、うらむことはできなかった。またいつ出ていくかは分からないが、一言何か言って出て行ってほしい。しかし、もう出ていくことはしてほしくないのが本音である。(20歳 女)
- ・夫婦の仲が悪い為、それをとりもつ役割をしているから。(23歳 女)
- ・父の母に対する暴力。(25歳 女)
- ・私の彼氏が2浪したことをとがめるような発言をした。学歴で判断したがる。(21歳 女)
- ・居間と風呂場がスリガラス1枚でへだてられている作りの家で父親がいる時でも母親がカーテンをしめてくれない。何も気がついてないのしょうが当時は毎日切実でした。(26歳 女)
- ・密集住宅地なのに着替えの時は窓を必ず開けるように言われる為着替えは素早くなくなっていました。

基本的に母が潔癖症でした。(26歳 女)

- ・母の貯金箱のお金が少しずつ減っているとの理由で私のせいにされ、何も覚えがないのに無理やりあやまらされた。後になって妹が盗っていたのが分かったが、妹の方はおとがめがなく、子供心に不信感をつのらせた。又、そのことについてあやまってもらえなかった。(28歳 女)
- ・言うことを聞かなかった時などにそんなだったら養子に出すと言われていて信じていた。(26歳 女)
- ・友達が書いてくれた手紙を、私が不在の時に机に置いてあったからといって勝手に読まれた。その手紙内容にすごく怒られた。手紙を読んだことについて一切謝ってくれなかった。プライバシーの侵害だと思った。(20歳 女)
- ・「携帯電話を買いたい。」と母に言うのと、さんせいしてくれたが、父に言う「ダメ!」と言われ、その後母にも「ダメ!」と言われた。(22歳 男)
- ・「勉強する気がないなら家業をつぎなさい。今からでもいいのよ。」と何かにつけて言われた時期あり(29歳 女)
- ・家の仕事についての重要な決定について、後になってから知らされたこと。仕事の内容なので口出しはできなくても、すぐに知らせるくらいはして欲しかった。(22歳 女)
- ・私自身が子供の頃の体験から(親からの暴力など)私生活に支障をきたしている事を親に告げ、親子関係に疑問を感じると言った時、「そんなにイヤなら2度と帰ってくるな」と言われた。(26歳 女)
- ・私の父は、毎年1年に1回はお酒がらみで、家族になぐったり包丁などを持ってきて警察を呼んだりしたことがあり、次の日になると、全く本人は覚えていなくて家族のだれかがその話をするとすごくこんどはおち込み、そのまた次の日になると酒はやめたとか言っているけど、毎年1年に1回だけこのような出来事が絶対あります。(20歳 女)
- ・大声でわめく。とりあえず人をけなす。このアンケートがきたのは、父が亡くなった直後です。2日後です。あまりどんなやったか覚えていません。(25歳 女)
- ・外見のことで笑われた。赤ちゃんの頃頭が大きかったので、「おまえは頭が大きい」と。今は成長してむしろ小さいくらいなのだが、高校で友人に教えてもらうまで「自分は頭でっかちではずかしい」とずっと思っていた。このようなささいなコンプレックスはいまだにいくつかあるため、人間関係でおくびょうになることがいまだある。(21歳 女)
- ・高圧的な態度。(23歳 男)
- ・養育者が私の夢を否定する。(21歳 男)
- ・子供あつかいしないで欲しい。(20歳 男)
- ・姉だからと弟に手を出されても、一切手を出しかえす事は許されなかった。(27歳 女)
- ・弟妹が悪いことをしても「オネエのようになるぞ」と自分が常におこられているようだった。成績が悪く、とりえがなかった。(27歳 女)
- ・父親の目のつく所にいると、何かしら言われるので部屋のすみにいた記憶がある。(27歳 女)
- ・テレビは父親が買ったから「オレの物」と何も言わず気にいらない(ドラマやバラエティーなどがきらいな父で)チャンネルは勝手にかえられ、友人の会話についていけなかった。(27歳 女)

- 父親のテレビや都合で風呂の順番を決められ、さめたらもったいないと少しの間もあけてはもらえなかった。小学校時代は風呂の水は腰までで2日に1回、シャワーもあまり長いことつかっていると使いすぎと言いにきた。生理の時も自分の都合で父より先に入られ、でもきたないからと湯ぶねに入ることは許されなかった。(27歳 女)
- 見ていだけでイライラすると言われた。(27歳 女)
- 恥ずかしくて言えない。(年齢不明 男)
- 大学受験で落ちたときに傷つくようなことを言われた事がある。(28歳 女)
- 自分の考えることが全て正しいと信じている。その自らの価値観を他人に押し付ける。(21歳 男)
- けがをして帰った際、明らかにキズを目にしたのに手当ても、どうしたの、の一言もなかった。(27歳女)
- 大学に入った頃、両親が離婚し、私は母親に引き取られました。元々、母は精神不安定なところがあり常に不安を抱いており、イライラしやすかったり感情の起伏が激しいです。『物を盗られた』と思い込み、部屋中に鍵を付けて、私が夜中寝ている時など泣き叫びながら「助けて!」と言ってくる時などもありました。母は頑固なところがあり、『物を盗られることなどない』と言っても、思い込みをやめようとはせず、逆に私への不信感を強めていき、親子関係が悪化しました。その後、私もうつ病になり、このままではダメだと思い、一人暮らしをしつつ、母の様子を見にいくという形で落ち着いています。今現在は、だいぶ母の様子も自然となっており、親子関係も修復し、毎晩色々な話をしながら一緒にご飯を食べています。(22歳 女)
- ずっと親が共働きだった。小学生の頃、水泳に通っていたけど自分の親だけ見に来てくれなかったり迎えに来てもらえなかったことがすごく淋しかった。淋しくて水泳に行きたくなくて嘘ついて休んだらバレた。その時、すごく怒られて悲しかった。(21歳 女)
- いつも計画を立てて遊園地や旅行に行く事が決定しても、親の気分で中止になる。その事に私が腹を立てると、逆ギレする。何も言い返せないくらいキレるので、私は自分の部屋に戻って諦めるしか方法がなかった。(21歳 女)
- 母親が家に帰ってこない事がよくあった。(27歳 女)
- 夫婦げんかが頻繁にあった。子供として同じ空間に居るのも嫌だったし、ヤツ当たりも受けて不快な思いをし続けた。
親の外ヅラと内ヅラが違いすぎて嫌だった。(24歳 男)
- ゲームをするのは1日1時間と親と約束していたが、時間オーバーをしてしまうことが多く、そうすると母がゲームボーイやコントローラーをかくして何日か出してくれないことがあり、それが嫌だった。押入れの座布団の間とか、整理だんすの引き出しの中、靴箱の中、あるいは台所の棚の上に箱に入れてとか、オーバーのポケット中に隠したりといろいろな場所にあって宝さがしのように母がいない時に家の中をさがしてみたりするのだが、たいがい見つからず「次から時間を守るから」とか「何をしたら出してくれるの?」と何とか母に懇願して出してもらったのだが、何日も出してもらえないことが多かった。(20歳 男)
- 干渉しすぎ。仲悪すぎ。金なさすぎ。自分にも悪いとこいっぱいあるから、今はもう反抗せんけど、何が悪いっておとんが全部悪い。おかんも見栄はりすぎ。不快なのは、母親がずっと働かされてる

こと。かわいそう。クチでは言い切れへんし、紙にも書く言葉が見つからん。これは表現出来ひんこと。(20歳 女)

- ・貧乏だったので、よく何かほしくても「お金がない」と言われてそれをすごくひけめに感じていた。実際に貧乏ではあった…。3姉妹だったので、末っ子で姉のおさがりばかりだった。(27歳 女)
- ・たたかれたりした。(25歳 男)
- ・父親がギャンブル依存症のため、消費者金融から多額の借金をしており、金銭的な話(大学の学費、交通費、教材費、車の免許 etc)をすると家全体が暗くなる。また、月末になると金銭的に苦しいと声に出して両親が嘆く。時々、親が「お金を貸して欲しい。」と言ってくる。以上のようなことを毎日の中で経験すると将来に不安を感じてならない。(25歳 男)
- ・両親が別居中なのにもかかわらず、母が男をつくった…。それから離婚届を提出した。(父と暮らしたり母と暮らしたり…)別居中がいままで一番辛く、思い出したくない過去の一つ。(今、現在は、その男の人と結婚し子供も一人、幸せて私達も良い関係。)

思春期だった為「女性」としての悩みなど、母に相談できなかったことや、母親を(その男の人に)“とられた”感が強く、反発していた。(同時期に私がいじめにもあい辛かった)(24歳 女)

全体として見ると、被虐待経験の有無に関して「ない」が多かった項目は、「11. 養育者は、あなたが家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしないことがある」97.2%、「7. あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある」96.6%、「17. 養育者が、『自殺してやる』と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりすることによって、あなたを脅すことがある」95.2%などであり、逆に「ない」が少なかった項目(つまり「ある」が比較的多かった項目)は、「3. 養育者は、あなたの部屋に勝手に入ったり、あなたの持ち物を勝手にチェックすることがある」57.6%、「6. 家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことがある」65.5%などである。

「ある」(「頻繁にある」+「ときどきある」)場合の被害経験の時期に関して「子ども時代(18歳未満)」が多かった項目は、「7. あなたが大切にしているおもちゃやペットを、養育者があなたの目の前で、故意に傷つけることがある」100.0%、「11. 養育者は、あなたに家族以外の人(友達や親戚など)との交友関係を持たせようとしないことがある」100.0%、「6. 家庭内で、養育者が、暴力を振るっている場面を見たことがある」98.0%、「1. 養育者は機嫌が悪い時、机を叩いたり、物にあたったりすることがある」95.8%などであり、逆に「子ども時代(18歳未満)」が少なかった項目(つまり比較的「成人期」が多かった項目)は、「14. 養育者に、『お前なんて…』というような、あなたの存在を否定する言葉をかけられることがある」73.7%、「15. 養育者は、あなたに本来、大人がするべき役割を押し付けることがある」75.0%、「18. 以上に挙げた1～17における経験以外で、養育者との関係において不快な思いをしたり傷ついた経験がある」75.0%などとなっている。

[未完]

[付記]

1. 引用文献は〔Ⅱ〕の末尾に一括して掲載。
2. 本稿は大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による研究成果の一端である。

The Actual Conditions of Psychological-Emotional Abuse: The Report of the Social Research on Osaka Community [I]

Osaka Shoin Women's University
Yoshiyuki ISHIKAWA

ABSTRACT

This paper (includes part II) is the report of the simple classified total findings of the survey by questionnaire on psychological-emotional abuse, which was conducted on 2,000 men and women aged from 20 to 29 in Osaka. The sampling method is the stratified two step random sampling. The survey method is the postal survey by the householder method. The survey period is 2004.11~2005.3. The total of valid respondents in 2,000 is 147 people, and the rate of response availability are 7.35%.

The chapters of this paper (includes part II) are 0. Introduction, 1. The outline of carrying out our survey, 2. The properties of our respondents, and 3. The questions in the questionnaire and the content of responses: the findings from simple classified total.

The main findings from the simple analyses of our data are as follows:

① the presence or absence of damage suffered by psychological-emotional abuse; the percentage of the victims of psychological-emotional abuse is 81.0% and that of the non-victims is 19.0%.

② the quantity of damage suffered by psychological-emotional abuse; the percentage of the non-victims is 19.0%, that of victims affected by a little damage is 41.5%, and that of victims affected by a great deal of damage is 39.5%.

③ the period for which the victims suffered damage; the percentage of the victims who suffered damage in their childhood is 86.9% and that of the victims who suffered damage in their adulthood is 13.1%.

We will some time later report the findings showed by the analyses beyond simple tabulation: *e.g.* chi-square test, *t*-test, analysis of variance and multivariate analysis.